岡田宮

宝永４年（１７０７）　貝原益軒書

第 70 号
令和2年11月吉日
発行　岡田宮社務所
郵便番号　806-0063
北九州市八幡西区岡田町１番1号
電 話 (093) ６２１-１８９８
FAX (093) ６２１-５３３０
ホームページ http://www.okadagu.jp/
E-メール okada_guu@yahoo.co.jp

開運　「八咫烏像」と「金鶏像」が完成しました。

八咫烏は、人々の人生を導き照らす道案内の霊鳥です。
金鶏は、勝利をもたらす霊鳥です。
古来より御祭神・神武天皇の神使として、
多くの人々から崇められて参りました。
この像を撫でられ、御神徳をお受けください。

金鶏（きんし）

勝利をもたらす霊鳥・大願成就の証として、古来より御祭神・神武天皇の神使として、多くの人々から尊ばれ崇められて参りました。この金鶏像を撫でられ、大神様の大いなる御神徳をお受けください。

八咫烏（やたがらす）

人々の人生を導き照らす道案内の霊鳥として、古来より御祭神・神武天皇の神使として、多くの人々から尊ばれ崇められて参りました。この八咫烏像を撫でられ、大神様の大いなる御神徳をお受けください。

目次

八咫烏像・金鶏像完成のご案内 …… 1
岡県紀行10 …… 2
神社なぜなぜ問答70 …… 2
第二十六回　岡田神社書道展 …… 3
年末年始の行事案内 …… 4
令和3年の厄年 …… 4

年末年始の行事案内

●大祓（おおはらえ）

十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料（お思召し）と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

●恵方祭（えほうさい）

十二月三十一日　二十三時半

子宝恵方犬の向きを西南西から南南東に変えます。

●歳旦祭（さいたんさい）

一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにと願う神事。

恒例の「福餅」五百個は今年は中止します。

●開運福引き

一月一日～三日

一枚五百円でハズレなし。
一等は羽根ぶとんなどが当ります。
新年の運だめしにどうぞ。

●どんど焼祭

一月十七日（日）

古くなった〆縄、門松等を焼納する神事。

地元の有志による餅まき、神酒接待、ぜんざい等の諸行事は中止します。

令和3年算賀の年祝

（年齢は数え年）

還暦	六十一才	昭和三十六年生	
古稀	七十才	昭和二十七年生	
喜寿	七十七才	昭和二十年生	
傘寿	八十才	昭和十七年生	
米寿	八十八才	昭和九年生	
卒寿	九十才	昭和七年生	
白寿	九十九才	大正十二年生	

令和3年の八方除

六白金星の方

生年	年齢（数え年）
昭和六年	九十一歳
昭和十五年	八十二歳
昭和二十四年	七十三歳
昭和三十三年	六十四歳
昭和四十二年	五十五歳
昭和五十一年	四十六歳
昭和六十年	三十七歳
平成六年	二十八歳
平成十五年	十九歳
平成二十四年	十歳

令和三年の厄年

（年齢は数え年）

厄年（男）

二十四才	前厄	平成十年生
二十五才	**大厄**	**九年生**
二十六才	後厄	八年生
四十一才	前厄	昭和五十六年生
四十二才	**大厄**	**五十五年生**
四十三才	後厄	五十四年生
六十才	前厄	三十七年生
六十一才	**大厄**	**三十六年生**
六十二才	後厄	三十五年生

厄年（女）

十八才	前厄	平成十六年生
十九才	**大厄**	**十五年生**
二十才	後厄	十四年生
三十二才	前厄	二年生
三十三才	**大厄**	**元年生**
三十四才	後厄	昭和六十三年生
三十六才	前厄	六十一年生
三十七才	**大厄**	**六十年生**
三十八才	後厄	五十九年生
六十才	前厄	三十七年生
六十一才	**大厄**	**三十六年生**
六十二才	後厄	三十五年生

◆厄年大祭　二月節分日

岡県紀行（おかのあがたきこう）10

明智光秀の異母弟と引野

今年の大河ドラマは、明智光秀（一五二八？～八二）が主人公の「麒麟がくる」だが、現八幡西区引野には光秀の異母弟が開いたという説のある寺院が存在する。

引野村は慶長年間（一五九六～一六一五）頃までは穴生（あのお）村の一部であったという。さかのぼって永禄年間（一五五八～七〇）以前には八所神社（のち熊手権現社・岡田宮）の神領が熊手・引野（穴生）に多くあったが、同社は豊後の大友氏の焼き打ちに遭い、社殿や神領の多くを失ったと伝わる。現在、岡田宮には、永禄八年（一五六五）銘の棟札が遺されているので、焼き打ちはそれより前のことかもしれない。なお、八所神社は慶長十二年（一六〇七）四月、福岡藩黒田家重臣で、のちの黒崎城主井上之房（ゆきふさ）（九郎右衛門、周防）の命によって熊手村貞元（現熊西）から現在地に移された。

さて、明智光秀の異母弟とされる芳俊という人物が開いたという寺院は、浄土真宗の廣照山教念寺である。同寺は慶長年間（一五九六～一六一五）には開かれていた。正徳四年（一七一四）四月に「寺号・木仏を許された」という（『筑前國續風土記附録』中巻）。ただし、幕末の筑前国御笠（みかさ）郡原田（はるだ）（現筑紫野市）の国学者である山内陽亭の筆写本には「実母弟」とある。異と実の草書体は似ているので、陽亭の誤写とも推測されるが、断定はできない。

また別の説では、文禄元年（一五九二）、大俊という僧（俗名は久我源右衛門で京都久我（こが）［現伏見区］の人）によって創建された。久我は古賀という表記の説もあり、源右衛門は、元々毛利家の家臣であったともいう（『福岡縣地理全誌』、『遠賀郡誌』）。

現在の教念寺御住職は第十七代目の古賀哲乗氏である。御住職の御教示によると、光秀が討たれた後、京都久我にいた光秀の異母弟は毛利氏のもとに身を寄せ、後に九州に渡り、教念寺を開いたのではないかとのことである。つまり、芳俊と大俊が同一人物の可能性があり、二つの説は連続性があるということだ。

光秀の異母弟の説は、「筑前國續風土記附録」巻之三十が初出と考えられる。同書は加藤一純らによって江戸後期に編纂された。ただ、明智氏の系図の一つ、『系図纂要』所載のものによると、光秀の父は光綱で、光綱の子は光秀と、斎藤伊豆守の妻となった女子の二人しか記されていない。また、『続羣書類従』所載の系図では、光秀の父は光隆とあり、信教（のち順慶）・康秀（通称は左馬助）の二人の弟がいることになっている。異母弟、庶子ゆえに芳俊の記載がないとも解釈できる。ただ、教念寺を開いた芳俊（あるいは大俊）が光秀の異母弟ということを証明する史料は同寺にも現存しておらず、「筑前國續風土記附録」とそれを参考にした編纂史料の他には管見の限り確認できない。新史料の発見がまたれる。

（北九州市立自然史・歴史博物館学芸員　守友　隆）

神社（なぜなぜ）問答（その70）

「山の神」とはどのような神様なのですか。

「山の神」について説明する際には、二つの点から見る必要があります。まず一つは古典にみられる「山の神」です。「古事記」には伊邪那岐命・伊邪那美命による神生みにより大山津見神（おおやまつみのかみ）が、また後の段では、火の神である迦具土神（かぐつちのかみ）の身体から奥山津見神（おくやまつみのかみ）のほか、七柱の神々が成ったことが記されているように、多くの山の神々の名が挙げられています。

もう一つは民間信仰における「山の神」です。この信仰は人々の生活と密接に関わっているため、その地域によりさまざまです。山の神に対する一般的な信仰は、春になると山から里に下り、五穀豊穣を助ける田の神となり、秋に収穫が済むと再び山に戻る農耕神として考えられています。また山には先祖の御霊が鎮まるとも考えられ、祖霊に対する信仰とも関わっています。

林業など山の仕事に携わる人々にとっての山の神とは、多くの場合は女性神と考えられ、山を護る神であり、お産の神としても信仰されています。年に何回かの山の神の祭日に山に入ると災難に遭うなど、祟りが恐ろしい神ともいわれています。また、漁業に携わる人々にとっても、山は航海の上で大切な目印であり、古来深く信仰されてきました。

中世末以降、俗称として自らの妻を「山の神」と呼ぶようになったのは、山の神の神楽に巫女が杓文字（しゃもじ）を持って舞ったためともいわれています。歌舞伎などに登場する「山の神」の恐ろしい姿は特に印象的です。

第二十六回 岡田神社書道展

◆会　期　令和2年7月21日（火）～29日（水）　◆総出品点数　578点

岡田宮賞

小2 林 詩葉
小3 小田 倖温
小4 岩熊 里歩
小5 坪井 紅
小6 武田 莉歩
中1 田野 美空
中2 高田 琴
中3 渡邉 怜

総代会長賞

小2 西口 隼梧
小3 山岸 ゆず
小4 下川 唄依
小5 石打 和奏
小6 秋山 太志
中1 恵良 楓
中2 花田 愛珠
中3 橋本 美桜

特選

小1 高橋 耀
小2 中田 侑輝
〃 藤井 結月
〃 安永 日和
〃 刀根りいか
〃 豊島 早希
小3 上田 紗菜
〃 西嶋 涼
〃 坂本 望未
〃 宮地穂乃香
〃 槌本 慧
〃 藤田 遮那
小4 武田 美里
〃 林 優詩
〃 福永紗羅々
〃 藤井陽奈子
〃 尾家 尚斗
〃 安光 聖
〃 下田 淳介
〃 諸冨 葵
〃 梅田 紋果
〃 瀬口 美優
〃 平野 心美
〃 土器屋陽菜乃
〃 渡辺 芽生
〃 重岡 美音
〃 中鉢 結香
〃 坂本あすみ
〃 内田 智子
〃 伊藤 百
〃 豊島 有希
〃 江口 葵
小5 有岡 美佳
〃 佐藤 桃子
〃 上田 政宗
〃 森田 琴音
〃 安部 明理
〃 矢野 七弥
〃 早川 結衣
〃 渡邉 智子
〃 安藤愛梨奈
〃 嘉戸 実紀
〃 園田 莉央
〃 槌本 瑛
〃 牧 美月
小6 吉良 汐莉
〃 市山 友菜
〃 山田真弓野
〃 敷田 幹太
〃 下田 遥介
〃 辻 心実
〃 花田 修都
〃 鈴木 拓哉
〃 柴田 結菜
〃 元島 大耀
〃 嶋津 優那
〃 長野 寿音
中1 前田 彩晴
〃 武田 将輝
〃 前田すみれ
〃 彌勒 聖日
〃 樋口 葵
〃 小島彩恵子
〃 宮地 柚菜
〃 伊藤 直
中2 岩熊 伶奈
〃 緒方 遵慈
〃 武田 もも
〃 武田 彩良
〃 青井 万桜
〃 稲垣 陽花
中3 後藤 紗希
〃 吉田 典加
〃 福田 妃菜
〃 吉良 知優
〃 安光 新
〃 樋口 鈴菜
〃 井上 華
〃 荒木 優奈
〃 今村 由依
〃 橋本 真桜
〃 番野 果歩

岡田神社の境内にあるスタジオ
お宮参り・七五三の参拝時の着物レンタルが
0円から借りられます。
19,000円～（四切り2枚・衣裳・着付・ヘアメイク付）
有川写真館
岡田神社STUDIO
北九州市八幡西区岡田町1-46　093-621-2080